後任市長問題をめぐり 明倫市議の奮闘
京都市政に大斧鉞

京都市政の頽廢は近年その極に達し、市會は伏魔殿と呼ばれ、市政の廓正を叫ばるるや愈々急なるものがある。明倫會所屬市議を以て組織されてゐる錦旗同盟では過去二ヶ年間に亘り、市政革政に奮闘して來たが、去る一月十五日大森市長追出後、後任市長問題をめぐつて益々醜状を暴露するに至つたため錦旗同盟では蹶然奮起し、政黨出身市長擁立の排撃運動を起し、寢食を忘れて努力し、此間本部理事石原廣一郎氏有力に市長候補に推されたるも同氏の辭退の結果、市會の長老で中立の淺山富之助氏の當選を見た。此間市會内部に大分解作用を起し、同志續々と參加し、市議六十一名中二十四名を以て明倫系の革新會を結成し遂に第一黨の出現をみるに至つた。此れによつて民政派十四名、政友派十三名、中立其他十名と相對して、京都市政革正に對する明倫系市議今後の活躍は實にめざましいものがあらう。

縣政革新を要望
阿部知事に 決議を手交す

靜岡支部では新任阿部知事を迎へたるを機とし、縣政に一大革新を斷行し皇道政治の確立を期せしむべく一月二十八日支部幹部會に於て滿場一致左の決議を決定、八木支部長はこれを携へて阿部知事を訪問、之れを手交しその實行を嚴重に要望した。

縣政一新に關する要望

一、綱紀肅正（説明略—以下同じ）
二、文教刷新
三、産業の振興
四、財政行政の整理
五、皇道縣政の實施
六、災害對策確立
七、頽廢的風俗の排除

一月廿八日　明倫會靜岡支部

御尊影の掲載を嚴禁せよ
婦人部も結成す　門司支部

門司支部では一月二十四日定例幹事會を開催左の決議をなしこれが貫徹を期すべく本部とも連絡大々的に運動を開始した。

決議

一、御尊影ノ新聞、雜誌掲載ヲ嚴禁シ不敬行爲ノ一掃ニ努ム（理由ヲ付シ文部、内務、宮内省へ申請）
一、皇紀ヲ用ヒ西暦ノ使用ヲ排ス（同上）（直接運動トシテ市内各小學校、中學校、官衙へ檄ヲ發ス。）
一、ダンスホールノ撲滅ヲ期ス（理由ヲ付シ内務大臣、警視總監へ申請）
一、賣國的行爲アル非國民ニ對シ極刑ヲ課スベシ（理由ヲ付シ内務、司法各大臣へ申請ス）

更に、同支部では引續き婦人部結成準備會を開催打合せを行ひ、二月十一日紀元節を期し結成式を擧行した。

國防觀念を強化

更に同支部では明倫主義の普及と徹底のために青年部を銃後の慰問と國防活動のために婦人部を結成する事に決し各々活動中であるが、更に皇國々防の第一線に於て或は傷き、或は名譽の戰死を遂げて無言の凱旋をする將兵の送迎のため永島支部長以下はその都度出動送迎し、國防思想強化に努めてゐる。

栃木縣支部主催 時局批判大講演會
市民に多大の感激

栃木縣支部では、二月三日結成後初めて時局批判をかね主義綱領宣揚のため大講演會を開催した。

この日本部からは理事陸軍中將奥平俊藏氏、青年部からは竹浪正義氏の兩氏を特に派し氣勢を添へた。定刻午後一時市民は多大の期待と興味をもつて綿の如き降雪を踏んで續々會場縣公會堂に集結、八百餘名に達した。支部幹事高橋愍氏開會の挨拶を述べ、神代史と國防と題して愛國の熱辯を揮ひ、支部顧問瀧澤佐市氏は、所感と題して、非常時と明倫主義の實踐化を強調、次で、本部派竹浪正義氏は軍部離間を策する者は國賊なり、と題して、國防第一線に於ける皇軍の愛國的熱意と苦心、政黨の國賊的罪惡を曝露し、これに痛撃を加へ、國民の奮起を力説する得意の雄辯に滿場の聽衆を熱狂せしめ、多大の喝采を博した。最後に、本部理事奥平俊藏氏は、政黨の自覺を促す、と題して天皇政治と政黨政治を説き、國防關係と國防の急を力説し、政黨政治の亡國的理由を説破して多大の感銘を與へ、午後六時盛會裡に閉會。

政府へ建言
仙臺支部

仙臺支部では二月九日夜中央マーケットに於て役員會を開催

一、帝國議會に對する態度決定
二、仙臺市に於ける戸數割賦課に就て

の二問題に付協議の結果、左の決議を滿場一致可決し、本部を通し政府へ建言した。

建言書

第六十七帝國議會は開會當初より重要國策審議を忘れ昨年臨時議會に於ける政友會の提出せる世に云ふ爆彈動議を中心として政府將政友會は互に面目論に因はれ此の探り合ひを是れ事とし解散回避のため妥協工作に沒頭する其醜態言語に絶す。政治を不公明に導く之れより大なるはよし。岡田内閣の既定方針孰れに行くかの感あり。今や九千萬國民は此腐敗墮落せる政黨を廓正せんには一日も早く解散を奏請し以て彼等に清算を迫る好個の時機なりと鶴首して俟ち居る有樣なり。然るに政府は此擧に出ずる勇氣なく徒らに擧國一致の美名に匿れ解散回避に汲々たるは國民總意に反するものなり。岡田首相は宜しく既定方針に基き國策本位に進み若し聽ぜざる時は解散を奏請、腐敗墮落せる政黨に反省を促すと同時に沈滯せる民心に活氣を與へ以て來るべき非常時突破に邁進されん事を敢て建言す

二月九日　明倫會仙臺支部

大阪支部聯合會 青年部を結成す
建國の佳日をトして

大阪支部聯合會では豫てより青年會員よりの切實なる要望により『青年部』結成に關し再三重要協議を重ねつつあつたが、今後の支部聯合會の果敢なる闘爭部隊として、かつ中堅として青年部を結成する事に決し、一月二十九日その準備を打合せの上、二月十日、最終準備會の時萬端の準備全くなり、二月十一日、建國祭の吉日をトし盛大な結成式を擧行した。當日聯合會からは川上會長を初め全會員と制服の青年部員七十名は生國魂神社に集合、午前九時、生田宮司齋主となり、結誓式を執行の上、部旗入魂式を執行、式典を終り、川上會長の奮闘を受け、熱烈なる激勵の辭をうけ、午前十一時半、ラッパ鼓隊を先頭に會旗四旒、長旗六旒、威風堂々市内行進を開始し、中ノ島に至り、建國祭行進に參加し、「明倫會の旗の下に」と題する宣傳ビラを全市に撒布し、主義を高揚し、軒昂たる意氣を示した。

情報を送れ

吾等の歴史的運動を強化し、全國會員同志を横に結ぶ強力な吾等の『明倫新報』が生れた。毎月十五日に發行し、必要に應じて回數を増し、號外も出す。支部、分會、會員各位は、遲くとも毎月十日に、各位の活動状況、地方状勢、計畫等々の情勢を必ず本部宛送達されたい。吾等の活動を全國的に強化するために。

全縣下へ擴大
奈良支部の活躍

奈良支部では一月二十二日

京都支部の動靜
自治政の全面的革新

京都市政革新のために奮闘しつゝある明倫市議諸氏は、豫算提示市會の席上、偶々同志田中伊三次市議が綱紀肅正問題で市長に質問を發し、關市長の節操問題にふるゝや多數派市政クラブは懲罰動議を提出し遂に成立、田中氏は五日間の登場禁止に會ふに至つたゝめ、同志議員等は何等懲罰に附さるべき點なきに、多數を以て横暴なる行動をとる多數派膺懲と、市政の全面的革新に向つて大活動を起す事に決し、正義派議員とも共同政黨議員の弊をも一掃すべく猛運動を開始した。

會員の懇親を兼ね支部事務所に於て新年宴會を開催した。出席者は兒玉支部長以下多數出席、支部活動部や自の意見を交換氣勢をあげた。當日の主なる出席者氏名左の如し。

兒玉市藏、松下正昭、吉村久吉、南信次、尾桝吉、大木健次郎、村尾、田正一、吉、小河、田行誠、引田、吉造、島孫作、田、藤助、正柴山下、春演田勇、村治、多信晴、芳井三泰、吉村正一、佐々木二郎、奧本德太郎

尚、同支部では昨年來全縣下への明倫會主義普及に努めてゐたが二月二十一日定例幹部會に於て協議の結果、今年度初期活動部として山間へ進出する事に決し近く座談會、演説會等を開催する事になり諸準備に着手した。

北日本を守る 飛行場設置問題で活躍
石川縣支部の近況

金澤市に於ける石川縣支部では、今回新に支部を市内兼六公園下兼六館内に移し、將來の活躍を期し、全役員は毎日午後互に支部に集合、各般の打合せを行ふ外、五ノ日を定例幹事會とし、毎月廿日は幹事會と決定し、活動に備へてゐる。尚、同支部では、北日本空の護りとして金澤飛行場設置に關し、昨年來縣、市當局にその促進方を進言し、委員を上げて運動中であり、本年度を期して之れが實現に猛進する事になつた。又、二月一日市外有所に於て同地方青年團を中心として座談會開催の結果、殆んど全員入會したゝめ近く之れ等青年を中心として青年部をも結成する計畫である。更に、第四高等學校生徒の校紀の頽廢と、墮落は國民教育上及社會風教上到底看過すべからざる状勢に陷つてゐるため、これが廓正に對して斷乎たる運動を開始する豫定である。而して、九日の縣會總選擧には、從來の政黨政治を排撃し、天皇政治確立の建前に於て果敢なる政治闘爭を展開する意氣込みである。

函館支部の新陣容
市民大會以來强化す

函館支部では客年十二月八日支部大會を開き、全會員の結束を堅め、一致邦家のために奉公の至誠を捧ぐる陣容盟し、役員の改選を行ひ陣容を堅めた。越へて本年二月五日には國幣中社函館八幡宮に於て支部旗の入魂式を行ひ、引續き金森樓に於て各會員の懇親會を開き、五分間演説を行ひ、氣勢を上げた。改選後の支部役員左の如し。

支部長　島田慶作、副支部長　田村與三郎、顧問　渡邊與三次、岡惠清太郎、長井策中島、理事長　加藤治正、理事　佐々木江藤雄、幹事　英三郎、任幹、太郎、次郎、英藏、久新、事　井一荒、南石佐、玉浅村、海老田、今幾熊澤、大川武井、杉野克巳、陸平高階春治、相談役　田村半吾

支部役員左の如し。顧問　福田榮太郎、中野鏡正、支部長　島内誠一、副支部長　長谷川樹規、幹事　多賀伊藤、三仙佐々木、男事　田原、野谷、啓尚、白次、年部、發仁、青年部長　吉田條之助

新刊
明倫合本
昭和九年度分

見よ！
面目一新の
明倫〔三月號〕
第六十七議會の剖解　總裁　田中國重
『昭和維新のために』　各大學十教授執筆
皇國々防の眞意義　陸軍省　清水盛明
上兵謀を伐つの時なり　八木雄馬
政黨の賣國的策動　編輯部
國體の要義　奥平俊藏
勤王志士を語る　大野輝之
會員の聲・ブックレヴユウ・資料・等々